

## 検疫上注目される病害虫の解説

ワタフキカイガラムシ科の一種 学名：*Icerya samarai* 英名：steatococcus scale

本種はカンキツ類、バナナ、コーヒー、ココヤシ、観葉植物等の害虫として知られており、近年シンガポールにおいてコミカンソウ属の植物に深刻な被害を与えたとの報告もある。本種は日本未発生で、輸入植物検疫では東南アジア産のバナナ生果実、ココヤシ生果実及び切り葉から発見されている。

**分布地域**：インドネシア、ミクロネシア連邦、パラオ、ニューカレドニア、パプアニューギニア、ソロモン諸島に分布している。

**寄主植物**：多食性でバラ科、ミカン科、ヤシ科、バショウ科、クワ科、アオイ科、ウルシ科等25科40属の植物で記録されている。

**形態**：雌成虫の虫体は橙黄色で約3～5mmの楕円形で白～淡黄色の口ウ質物で厚く覆われる。

本種の外観（図A1）は日本国内に広く分布するキイロワタフキカイガラムシ *Icerya seychellarum*（図B1）に非常によく似るが、キイロワタフキカイガラムシを含めた国内の *Icerya* 属のいずれの種も成熟すると腹部の後方に卵のうを形成するのに対し、本種は腹部中央が内側に窪んだ育のうを形成することで識別ができる。しかし、成熟前の雌成虫では外観による識別はできない。

本種の雌成虫のプレパラート標本の特徴は次のとおり。腹部腹面の亜央部に育のう帯（図A2）を持ち、卵のう帯を欠く。3対の腹部気門を持つ。腹部腹面にある生殖門の後方には3個の瘢痕（図A3）を持つ。やや大型の円形分泌孔を背面および腹面の周縁部に持つが、背面中央部には欠く。この大型の円形分泌孔の外枠には14～16個の小孔があり、枠の内側に三角形の突起を欠く。上述のとおり、日本国内に分布する本属のいずれの種も育のう帯を欠き、卵のう帯（図B2）を持つことで識別ができる。

**生態**：雌成虫は成熟すると育のうを形成しそこに産卵する。ふ化した幼虫は歩行や風等で分散する。雌では2齢、3齢幼虫を経て成虫になり、雄は2齢幼虫の後、前蛹、蛹を経て羽化し、翅を持つ成虫になる。

**被害**：本種は寄主植物の枝葉を吸汁して衰弱させ、加害が激しい場合は部分的な落葉や樹勢の

低下をもたらす。また、分泌する甘露が植物体表面にすす病菌を繁殖させ、外観を損なわせ商品価値を下げる。

**防除**：本種の虫体は厚い口ウ質物に覆われているため化学的防除は一般に難しい。天敵による生物的防除が有効と考えられており、捕食性天敵としてテントウムシ科のツマアカオオヒメントウ *Cryptolaemus montrouzieri*、ダイダイテントウ *Rodolia pumila*（ともにわが国既発生）が知られ、パラオではダイダイテントウの導入により本種の個体数が抑制されたとの報告もある。

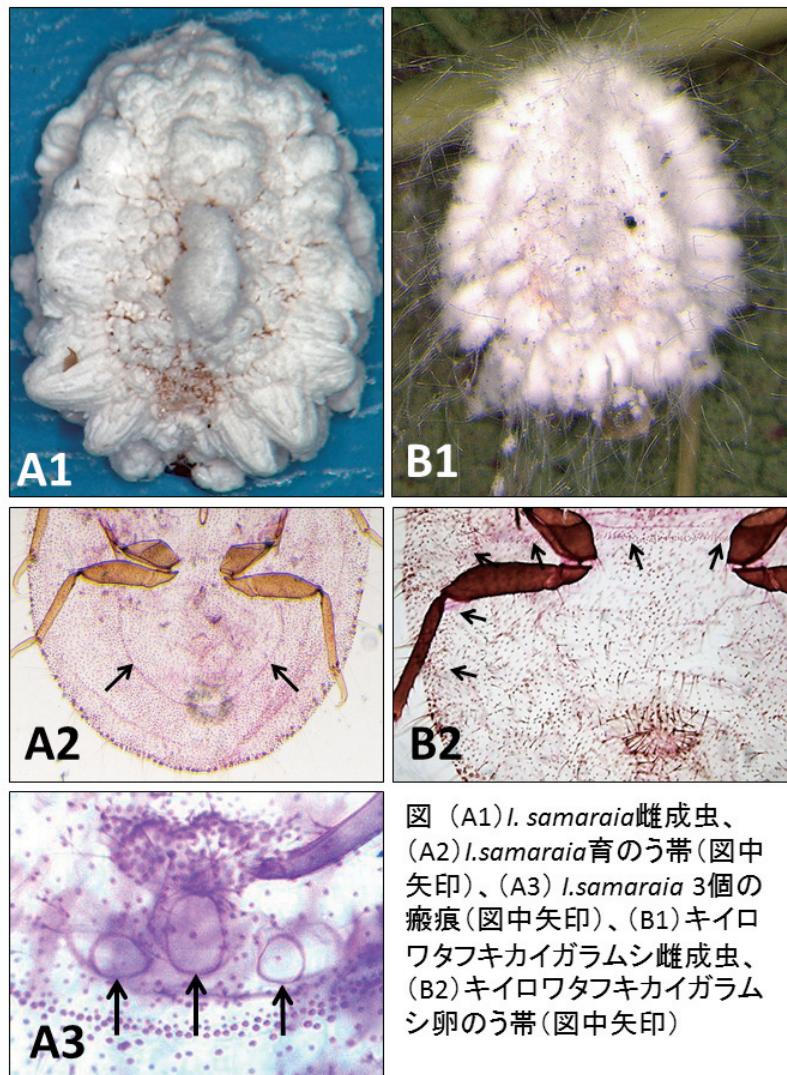


図 (A1) *I. samarai* 雌成虫、  
(A2) *I. samarai* 育のう帯(図中矢印)、(A3) *I. samarai* 3個の  
瘢痕(図中矢印)、(B1) キイロ  
ワタフキカイガラムシ雌成虫、  
(B2) キイロワタフキカイガラム  
シ卵のう帯(図中矢印)

### 主な参考文献：

- Agri-Food Veterinary Authority of Singapore. (2013) Plant health brief. Singapore: Plant Health Laboratory, AVA. (online), (accessed 2017-05-11).
- Unruh, C.M. and Gullan, P.J. (2008) Identification guide to species in the scale insect tribe Iceryini (Coccoidea: Monophlebidae). Zootaxa 1803: 1-106.